

(四) 総社そうしゃと広峯神社ひろみねじんじや

射楯兵主神社いだてひょうずじんじや

播磨の総社として親しまれているこの社やしろは、射楯兵主神

社と総社とからなっています。

射楯兵主神社は、射楯大神いだておおかみと兵主大神ひょうずおおかみとをあわせて祭っているので、二つの



射楯兵主神社

名を続けて呼びますが、初めのころは、二つの神が別々に祭られていました。

射楯大神は、やまたのおろちを退治したといわれる素戔嗚尊みことの子である五十猛命たけるのみことのことです。天から下るときに、多くの木を持っていて、国内のあちらこちらに木を植えたという神で、大和時代やまとには、今の新在家しんざいけから姫路市街地しがいちにかけての因達里だてのさとに祭られていました。

兵主大神は、因幡いなばの白兔しろうさぎで親しみ深い大国主命おおくにぬしのみことのことで、国内の悪者を平らげて国づくりをした神であり、大和時代から手柄山てがらを中心とした伊和里いわさとに祭られていました。

平安時代になって、東北地方が乱れ、これをしずめるために全国的に軍備を調ととのえたところに、武神ぶしんである兵主大神を、姫山の東できれいな清水しみずのわく今の姫路東高等学校あたりの小野江おのえに移したといわれています。その後、射楯大神も、ここにあわせ祭られ、射楯兵主神社と呼ばれるようになりました。

両神とも、姫路地方を開拓かいたくした神であり、また、武神であるということも多くの人々から信仰されてきました。

**総社** 平安時代には、国司こくしが地方に下ると、まず、その国内の主な神社を参拜さんぱいして回るまわるならわしがありました。けれども、交通の不便な時代に、多くの神社を順番に回まわることは、たやすいことではありませんでした。そこで、この



播 磨 国 総 社

時代の終わりごろには、  
国府こくふに近い場所に国内の  
神々をあわせ祭り、ここ  
へ参ることによって、一  
つ一つの神社へ参拝する  
ことをやめることになら  
した。こうして造られた  
のが総社です。

播磨はりまの総社は、一一八一年（養和元年ようわ）、播磨国内の百七十四の神社の神を  
射楯兵主神社の境内にあわせ祭ってできたのです。今、射楯兵主神社の神殿の  
背後はいごにある二棟むねの社が総社で、播磨国十六郡の神々が郡別に祭ってあります。

武士の時代になっても、両神が武神であるので、武将しやうの厚い保護を受け、ま

た、国土繁栄はんえいの神として広く人々に信仰され、この地方の信仰の中心になっていました。そのため、総社の領地が、千ヘクタールもあつたときがあります。総社が、小野江から今の土地に移つたのは、豊臣秀吉とよとみひでよしが播磨を平定したところで、境内は、四ヘクタールもの広さがあつたといわれています。

広峯神社 姫路城の北方、広嶺山の頂上ちやうじやうに社殿がかすかに見えます。これ

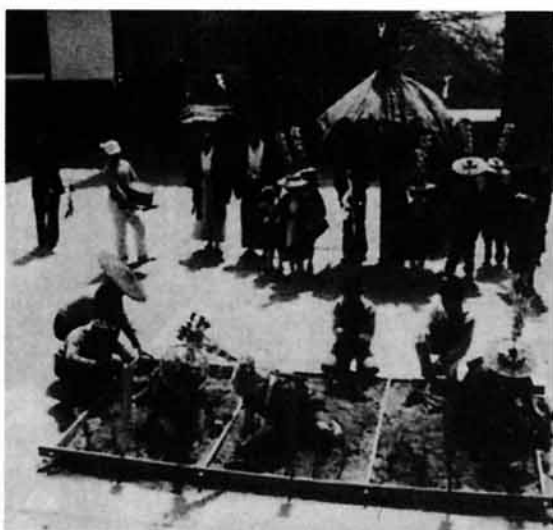
が広峯神社です。この神社には、素戔鳴尊とその子の五十猛命、奇稻田姫くしなだひめなど十三柱の神々が祭つてあります。奈良時代、遣唐使けんとうしとして、二度も中国へわたり、中国の文化をとり入れるのに力を注いだ吉備真備きびのまきびが、朝廷に願い出て祭つたのが始まりだといわれています。平安時代に、京都で流行病が治まらなくて困っていたとき、多くの人々から厚く信仰されていた広峯神社の神を、京都の八坂やさかに移して祭つたところ、流行病がすぐに治まったといわれています。それから、八坂神社の祇園祭ぎおんりが行われるようになったということです。



広 峯 神 社

このことから、広峯神社は、八坂神社のものと社ということになります。

鎌倉時代になると、広峯神社の神官は、幕府の御家人になり地頭なども兼ね、姫路地方で大きな勢力を持つようになりました。広峯神社が最も活躍したのは、鎌倉時代の末から南北朝時代にかけてで、後醍醐天皇の軍に参加して六波羅を攻め、後には、足利尊氏に味方して、神戸の湊川の戦いで、大きな手柄をたてました。それで、神社もたいへん栄え、南北朝時代に書かれた



広峯神社の御田植祭り  
(市指定の無形民俗文化財)

『峯相記』<sup>みねあいぎ</sup>という本には、天皇や貴族から厚く信仰された和歌山県の熊野の御嶽<sup>おんたけ</sup>にもおとらないほど、多くの人々が道を争ってお参りしたと記されています。

建物は、鎌倉時代に武士の争いに巻きこまれて全焼したため、現在あるものは、それ以後再建され、修理されたものです。本殿は、室町時代中期のもので、

將軍足利義政<sup>あしかがよしまき</sup>も、その建築に寄付をして

います。この本殿は、内陣<sup>ないじん</sup>と外陣<sup>げじん</sup>の二つ

に分かれ、内陣の奥の一段高いところに

正殿<sup>しょうでん</sup>・左殿<sup>さでん</sup>・右殿<sup>うでん</sup>の三つの小神殿をなら

べためずらしい造りになっています。正

殿に素戔鳴尊・五十猛命、左殿に奇稻田

姫と二神、右殿に八神が祭られています。

室町時代の本殿と桃山時代<sup>ももやま</sup>の拜殿<sup>はいでん</sup>は、と

もに国の重要文化財、多くの末社まつしやは市の文化財に指定されています。

年中行事の中で、四月に行われる御田植祭おんたうえりは有名です。神殿前に仮の田を造り、歌や音楽に合わせて田植えの式をして、豊作を祈り、また、うらないによつて、その年に植える稲の種類を決めるといふ祭りです。

このように、広峯神社は、病をしずめ、農業を守る神として、播磨はもとより因幡・但馬たじま・丹波たんばなどの人々からも信仰されて栄えました。